

# 1 級河川鷓川 美しい川の宣言 (案)



鷓川・ピリカ・プロジェクト

～美しい川をめざして～

平成21年3月



# はじめに Prologue...

## 武鳥

川は、その源を北海道勇払郡占冠村の狩振岳（標高 1,323m）に発し、占冠村、むかわ町（穂別地区、むかわ地区）の市街地を経て太平洋に注ぐ、幹川流路延長 135km（全国 29 位）、流域面積 1,270km<sup>2</sup>（全国 52 位）の一級河川です。

また、1 級河川水質ランキングで全国 1 位（平成 17、18 年）にランキングするような全国でも有数の清流であります。この清流武鳥川の流域にはシシャモ、サケなどの魚類、サクラソウ、カタクリ、ミズバショウなどの植物、オジロワシ、オオワシ、アオサギなどの鳥類、ニホンザリガニ、エゾサンショウウオなどの多様な生き物が生息するとともに、赤岩青巖峡や福山溪谷といった景勝地やシギ・チドリなどの渡り鳥が飛来する河口干潟があります。

武鳥川は特産品のシシャモのほか、米、野菜、メロン、肉牛といった武鳥川流域の特産品を生み出し、多くの恩恵を受けております。

また、武鳥川流域にはアイヌ語に由来する地名が多く、シシャモカムイノミといった武鳥川独特のアイヌ伝統文化もあります。

一方で度重なる洪水が発生し、災害の脅威から地域の安全を確保することが必要となっております。

そこで、安全・安心、自然豊かで魅力あふれる武鳥川を未来へ引き継ぐために、NPO、市民団体、住民、関係機関、河川管理者で構成する「武鳥川・ピリカ・プロジェクト」を設立し、未来へ向けた川づくりについて議論を重ねてきました。

わたしたち、「武鳥川・ピリカ・プロジェクト」は、こうした理念のもと、「美しい川の宣言」をとりまとめました。

この宣言は、未来へ引き継ぐ武鳥川の姿を思い描き、その目標と行動計画について示したものであります。

流域の住民の方々はもとより、流域外の人たちにも広くこの宣言を理解していただき、手と手を取り合って、ともに行動していけることを願います。

緑なす  
森と田園の中  
流れ行く

武鳥川よいつも  
清流であれ

唄 石田 節子 武鳥川・ピリカ・プロジェクト

〇年〇月

武鳥川・ピリカ・プロジェクト委員一同

「ピリカ」とは、アイヌ語で「美しい、良い」などを意味する言葉です。



# 1 級河川鵜川 美しい川の宣言

鵜川・ピリカ・プロジェクト

## Index 目次

1. 鵜川・ピリカ・プロジェクトの歩み	①
1-1 設立	1
1-2 プロジェクトの位置づけ	2
1-3 委員名簿	3
1-4 プロジェクトの経過	4
2. 美しい川の宣言	⑥
2-1 目標と宣言	7
3. 行動計画	⑩



# 1. 鷓川・ピリカ・プロジェクトの歩み

## 1-1 設立

**鷓**川・ピリカ・プロジェクトは平成 19 年 3 月 8 日に鷓川流域懇談会（仮称）として、NPO、市民団体、住民、関係機関、河川管理者の 19 名の委員により発足しました。

翌年には占冠村より 1 名の委員が参加し、現在は 20 名の委員により構成されています。

平成 19 年 3 月 8 日に開催された鷓川流域懇談会（仮称）で、会の名称を鷓川・ピリカ・プロジェクト～美しい川をめざして～と命名しました。

ここで、「ピリカ」とはアイヌ語で「美しい、良い」などを意味する言葉で、未来に美しい、良い鷓川を継承していきたいという想いを込めています。

また、会の内容を流域内外に、より知っていただくため、「～美しい川をめざして～」という副題をつけました。

鷓川・ピリカ・プロジェクトの設立趣旨は以下のようになっております。

### 鷓川・ピリカ・プロジェクト

～美しい川をめざして～

#### 設 立 趣 旨

鷓川は、上流の占冠村から中下流のむかわ町（旧穂別町、旧鷓川町）の、山間渓谷や河川沿いの農地・市街地を流れ下り、太平洋にそそぐ日本有数の清流で、その名はアイヌ語の「ムカ・ペツ（河口が塞がる川）」に由来しています。

流域では、シシャモやシギ・チドリなどが生息・生育し多様な生態系が形成されており、その自然の豊かさを背景として農林水産・観光業が基幹産業として営まれています。またアイヌの継承地、太古の化石の出土地としても知られています。

鷓川の川づくりは、度重なる洪水の脅威から地域の安全を確保し発展を支えるため、昭和 26 年より本格的な治水事業が行われてきました。また経済活動等の影響から生物の生息・生育環境を保全するため、住民や行政などにより干潟保全や森林植樹など環境保全の取り組みなども行われてきました。

一方で近年、地球規模の自然環境の変化と災害の発生が懸念される中、鷓川流域においても平成 4 年、平成 15 年、平成 18 年などに見られる洪水災害の頻発や自然環境の変化の進行、加えて地域の防災意識や川への関心の低下に起因した被害や影響の拡大が懸念されています。

このような状況に対しては、流域の視点から、住民や行政などが、鷓川の現状と課題及び将来について話し合い、意見を共有し、協働の川づくりを行うことが必要と考えます。歴史・文化を尊重した、自然豊かな安全・安心の川づくりを行い、未来へ魅力あふれる鷓川を引き継ぐため、鷓川・ピリカ・プロジェクトを設立します。

## 1-2 プロジェクトの位置づけ

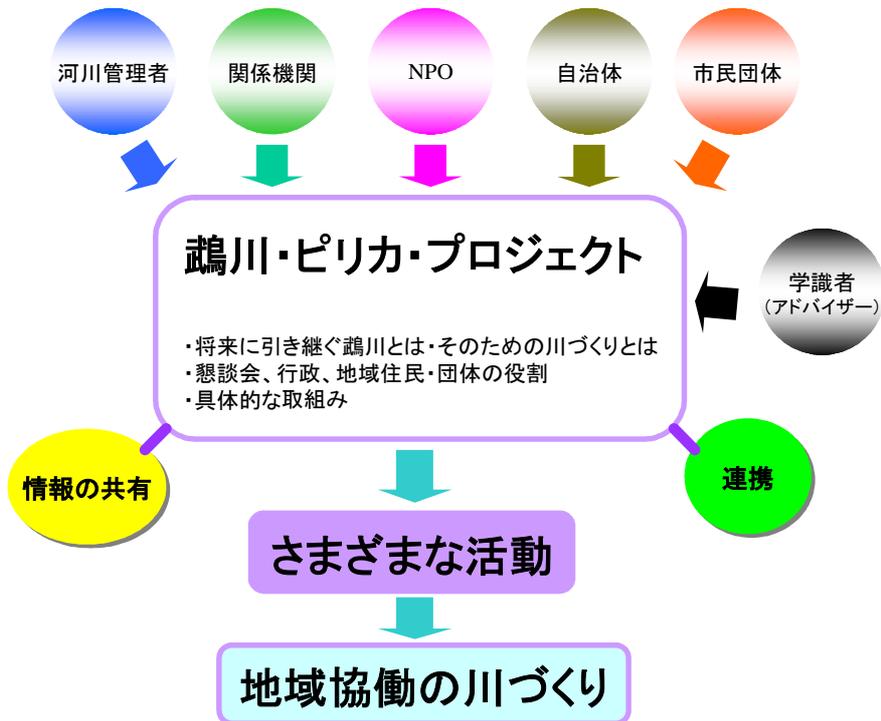


図 1-1 鵜川・ピリカ・プロジェクトの位置付け

鵜川・ピリカ・プロジェクトは市民団体、NPO、関係機関、自治体、河川管理者で構成されます。

鵜川・ピリカ・プロジェクト会議を通して、コミュニケーションを図りつつ情報を共有し、鵜川の自然の豊かさや力、歴史・文化などの理解を深め一層の信頼関係を構築します。

また、学識者による勉強会を通して、より専門的な意見を聞きながら、「将来に引き継ぐ鵜川の姿と川づくり」について議論を行います。

共有した意見や考え方のもと、様々な活動を実施するとともに、地域や全国に広く発信し、多くの人に鵜川の魅力を伝えることで、活動の輪を広げ、地域協働の川づくりに取り組みます。

## 1-3 委員名簿



川・ピリカ・プロジェクトには、20名が委員として参加し、座長の小坂利政、副座長の相田準一を中心に議論を重ねてきました。

異動により委員の変更がありまして、これまで27名が委員として参加しています。

表 1-1 鷗川・ピリカ・プロジェクト委員一覧

	氏名	所属	在籍期間（平成）		
			18	19	20
座長	小坂 利政	むかわ町一級河川鷗川愛護協議会	●	●	●
副座長	相田 準一	NPO 法人鷗川・沙流川交流会	●	●	●
	飯岡 孝一	むかわ・森・川・海を守り隊	●	●	●
	小山内 恵子	ネイチャー研究会 in むかわ	●	●	●
	中井 弘	むかわ柳葉魚を語る会	●	●	●
	押野 朱美	鷗川アイヌ文化伝承保存会	●	●	●
	押野 里架	鷗川アイヌ文化伝承保存会	●	●	●
	齊藤 裕子	むかわ町立生田小学校	●	●	
	富樫 生志	むかわ町立生田小学校			●
	藤田 栄	北海道穂別高等学校	●	●	
	松澤 正枝	北海道穂別高等学校			●
	石田 節子	鷗川地域協議会	●	●	●
	鎌田 政博	穂別地域協議会	●	●	●
	北原 聡夫	鷗川町商工会青年部	●	●	
	大江 孝英	鷗川町商工会青年部			●
	観音 肇	占冠村観光協会	●	●	●
	豊岡 義博	穂別苫小牧森林組合	●	●	
	小林 敏哉	苫小牧広域森林組合		●	●
	五十嵐 順一	胆振東部消防組合消防署鷗川支署	●	●	●
	松並 政一	胆振東部消防組合消防署穂別支署	●	●	
	松田 順一	胆振東部消防組合消防署穂別支署		●	●
	岡田 信一	むかわ町企画課	●	●	●
	松永 真理	占冠村総務課		●	●
	首藤 敏	室蘭土木現業所苫小牧出張所	●		
	棚池 裕治	室蘭土木現業所苫小牧出張所		●	●
	菅原 秀紀	室蘭開発建設部苫小牧河川事務所	●	●	
	巖倉 啓子	室蘭開発建設部苫小牧河川事務所			●

## 1-4 プロジェクトの経過

### 武鳥

川・ピリカ・プロジェクトは平成 19 年 3 月 8 日に発足以降、平成 21 年 3 月までに計 12 回の会議を開催し、未来に継承していく鵜川の姿について話し合いを重ねました。

#### ★「知る (Know)」

第 2 回ワークショップでは「過去から現在までの鵜川の情報」、「鵜川への想い」について意見出しを実施しました。出された意見は「防災」、「環境」、「教育・文化」、「観光」に分けられ、それぞれの視点から議論が行われました。

第 3 回現地調査会では鵜川河口から源流までを視察し、流域の情報共有を行い、第 4、6、7 回の講師による講演を通して、鵜川流域の特徴と将来の発展に向けた方策について知識を深めました。

#### ★「考える (Think)」

第 8 回ワークショップでは、「防災」、「環境」、「教育・文化」、「観光」をもとに、未来へ引き継ぐ鵜川の姿について目標となるキーワードを考えました。

#### ★「想う (Image)」

第 9 回はアクションプランの体験を行い、干潟観察会に参加して、渡り鳥の観察や干潟に生息するゴカイを子供達と調査することにより、干潟の大切さを実感しました。

第 10、11、12 回ワークショップでは、未来へ継承していく鵜川の姿を思い描きながら、目標の集約と行動計画を話し合い、美しい川の宣言（案）を作成しました。

#### ★「動く (Action)」

平成 21 年度以降は美しい鵜川に向けて実際に行動していきます。

また、実際に行われた行動（アクションプラン）に対して評価及び行動計画の見直しを随時行っていきます。



第 3 回現地調査会



第 9 回干潟観察会

表 1-2 鷗川・ピリカ・プロジェクトの経過

過程	会議	議題	分類
発足	第1回 (H19.3.8)	・鷗川・ピリカ・プロジェクト設立	設立
知る (Know) 	第2回 (H19.3.22)	・ワークショップ 「過去から現在の鷗川の情報」 「鷗川への想い」	全分野
	第3回 (H19.7.14)	・現地調査会 鷗川の河口から源流まで	現地
	第4回 (H19.10.25)	・鷗川・ピリカ・プロジェクト講演会 室蘭工業大学 教授 藤間 聡氏 「ハザードマップの作成～室蘭市コイカクシ川の事例～」 ・ワークショップ(防災) 「災害を未然に防ぐには」 「万が一災害が発生したら」	防災
	第5回 (H19.12.4)	・ワークショップ(防災) 「避難前の課題と取組み」 「避難時の課題と取組み」	防災
	第6回 (H20.2.23)	1 鷗川・ピリカ・プロジェクト講演会 流域生態研究所 所長 妹尾 優二氏 北海道環境財団 理事長 辻井 達一氏 2ワークショップ(環境) 「鷗川の川づくりに向けて」	環境
	第7回 (H20.3.25)	3 鷗川・ピリカ・プロジェクト講演会 NPO 法人ねおす 専務理事 宮本 英樹氏 社団法人北海道ウタリ協会胆振地区連合会副会長 片山 幹雄氏 4ワークショップ(教育文化、観光) 「鷗川の川づくりに向けて」	教育・文化
			観光
考える (Think) 	第8回 (H20.8.6)	5ワークショップ 「目標に入れる言葉の抽出」 「ベースマップ作成」	全分野
思う (Image) 	第9回 (H20.9.13)	6アクションプログラムの体験 「ネイチャー研究会 in むかわ 干潟のピクニック」	現地
	第10回 (H20.11.18)	7ワークショップ 「目標づくり」	全分野
	第11回 (H21.1.28)	8ワークショップ 「行動計画(アクションプラン)について」	全分野
	第12回 (H21.3.3)	9ワークショップ 「宣言書作成に向けて」	全分野

動く

(Action)



アクションプランへ

## 2. 美しい川の宣言

# Mukawa River Declaration

# 武鳥

川は、占冠村の狩振岳にはじまり、占冠村、むかわ町（穂別地区、むかわ地区）の市街地を経て太平洋に注ぐ、延長 135km の一級河川です。

名前の由来は「ふさがる川」とアイヌ語のムカ・ペッだと言われています。流れが穏やかであることから、昔から「母なる川」として親しまれ、「女川」とも呼ばれてきました。

また、川の水は清澄で、全国でも有数の清流であることが知られており、晩秋には鵜川のシンボルであるシシャモが遡上します。

流域は山と川に囲まれ、上流では赤岩青巖峡などの荒々しい岩々が、中流ではのどかな田園風景、下流では渡り鳥が飛来する干潟と、それぞれにおいて鵜川はさまざまな表情を見せながら時節を超えて悠々と流れております。

自然が豊かな鵜川はわたしたちに農作物や漁獲物という恩恵をもたらすだけでなく、鵜川独自のアイヌ文化を生み出しました。

しかし、鵜川は集中した雨が降ると別の顔を見せ、洪水氾濫による災害をもたらします。わたしたちは過去の教訓に学び、地域の安全を確保することも必要です。

わたしたち「鵜川・ピリカ・プロジェクト」は、鵜川の豊かな自然環境や水辺空間、川がはぐくむ豊かな教育空間、鵜川で生まれた多様な文化や伝統、災害に強い安心安全な地域づくりに取り組み、人と鵜川がいつまでも寄り添って暮らせるような未来の創造と、川の恵みを末永く後世に引き継ぐことを宣言します。

We "Mukawa FIRIKA project" tackle to preserve a lot of rich natural environment and the waterside space in Mukawa, the rich educational space, the various culture and tradition which were born in Mukawa, and make a safe community improvement strong against the disaster, and now, We dedare handing down forever the creation of the future which nestles up forever and can live people and Mukawa, and the blessing of a river to future generations.

今後は、この宣言に盛り込んだ自然と魅力あふれる鵜川の実現を目指し、流域住民が力を合わせて行動していきたいと考えております。

また、この宣言が地域の活性化を促し、さまざまな方面で具体的な活動へと展開していくことを期待いたします。

〇年〇月〇日

鵜川・ピリカ・プロジェクト委員一同

## 2-1 目標と宣言

目標：

森・川・海！豊かな自然と伝統文化、  
ししゃも伝説の悠久の流れに生きる

宣言：豊かな自然環境の保全と活用

宣言：鷗川の自然・歴史・文化の学習と体験

宣言：鷗川の恩恵と活用

目標：

ガッチリ防災、  
手と手つないで、安全・安心の鷗川へ

宣言：防災情報が行き届く鷗川

宣言：災害をよく知り、ともに助け合う鷗川

宣言：災害に強いふるさとの川づくり

## 目標：森・川・海！豊かな自然と伝統文化、 ししゃも伝説の悠久の流れに生きる

### 宣言：豊かな自然環境の保全と活用

鵜川は全国でも有数の清流で、その流域には多種多様な動植物が生息し、四季折々の景観を呈しています。

特に、鵜川河口には人工干潟があり、シギ、チドリなどの渡り鳥の中継地として重要な役割を果たしています。

このような多様な生き物が生息できる川でありつづけるように森・川・海を一体で人の手により保全し、生き物と触れあう感動を子供達へ伝えていきます。

また、鵜川の魅力を広く全国に発信し、自然体験を通して保全の輪を広げます。

### 宣言：鵜川の自然・歴史・文化の学習と体験

鵜川には、渡舟場、流送、開拓の歴史や、アイヌ語にまつわる地名やシシャモカムイノミといった川と密接にかかわった鵜川特有のアイヌ文化、多様な生態系を有する豊かな自然など、子供達の学習素材が豊富にあります。

大人と子供達がふれあいながらこのような素材を体験することで、アイヌ民族の自然と人間は一体であるという精神を実感し、自然、歴史、文化の保全や伝承していくための良い経験となります。

その経験は将来の鵜川を形成していくために、かけがいのないものになるのではないかと考えます。

そこで、シシャモ伝説が生まれた鵜川の柳の木の下で、子供達が川に遊び、自然、文化、歴史などを川から学ぶ「川育」の推進に努めていきます。

### 宣言：鵜川の恩恵と活用

鵜川はシシャモをはじめとする魚介類、田園を潤すことによる米や野菜を生み出し、鵜川特有の食文化や産業を創出しています。

私達は鵜川からの恩恵に感謝するとともに、鵜川流域の自然、食材、文化を前面に押し出し、体験をとおして、子供からお年寄りまで鵜川のすばらしさを実感できるように努めます。

また、鵜川の魅力を流域内外に伝えることのできるイベントや人材の育成に努めます。

## 目標：ガッチリ防災、手と手つないで、 安全・安心の鷓川へ

### 宣言：防災情報が行き届く鷓川

関係機関は災害の予測や状況を共有して、適切な判断を行い、正確な情報を住民へ迅速に提供できる体制をつくります。

住民への伝達は防災行政無線などのあらゆる情報伝達手段を用いて、全住民へ伝達できるように努めます。

地域では自主防災組織を結成して、地域ネットワークを構築し、日頃の防災意識の向上や高齢者などの要支援者の把握と地域連携の体制を整えます。

災害時には自主防災組織が中心となって、関係機関と地域の情報を共有するための懸け橋となるように努めます。

### 宣言：災害を知りともに助け合う鷓川

過去の災害事例の教訓を活かし地域における危険箇所、避難経路、避難場所の把握といった地域独自のハザードマップの整備や防災訓練や教育を実施し、日頃から防災体制の構築に努めます

また、近年集中豪雨が多発し、災害のリスクが増大していることを踏まえ、災害の発生が予想される場合には、自主防災組織が中心となって地域内で共に助け合いながら自主的に避難するなど、人命が最優先という意識をもって行動します。

### 宣言：災害に強いふるさとの川づくり

過去の災害事例や今後多発する集中豪雨から地域の安全を確保するため、河川整備を必要としています。

鷓川には清流の恵みを得て、様々な生物が生息し、シシャモといった地域を代表する特産品があることから、良好な自然環境への配慮が必要です。

今後の川づくりを行うに当たっては、洪水被害を軽減することはもとより、ふるさとの川を実感でき、子供、恋人、お年寄りが手と手をつないで歩ける安心と癒し溢れる川づくり、人間と自然が共生できることを目指し、人の川への想いを未来までつなげる川づくりに行政と住民が手を取り合って取り組みます。

# 3. 行動計画

行動計画の実行には鵜川・ピリカ・プロジェクトのみならず、流域住民や関係機関などにも広く参加を呼びかけます。プログラムの実施結果を踏まえて、計画の見直しを図りながら継続していきます。

また、自然と魅力あふれる鵜川の実現を目指し、地域による自発的なアクション活動へと発展し、鵜川流域が活性化していくことを期待します。

※アクションプラン実施のめやす（点線は思い・計画時期）

短期取組：2～3年 ●  
 中期取組：5～6年 ●  
 長期取組：概ね10年 ●

目標	宣言	アクションプラン	取組み時期			
			短期	中期	長期	
森・川・海！豊かな自然と伝統文化、ししやも伝説の悠久の流れに生きる	豊かな自然環境の保全と活用	情報マップづくり	●			
		エコツアー		●		
		鵜川の写真展	●			
		フットパスづくり			●	
		情報発信拠点の活用	●			
	鵜川の自然・歴史・文化の学習と体験	アイヌ文化体験		●		
		川育の実施	●			
		川の教科書づくり	●			
		鵜川のアイヌ語地名探索		●		
		絵・作文のコンクール (テーマ:100年後の鵜川)	●			
		川育指導者の育成		●		
		ライフパーク看板づくり		●		
		ししやも館づくり			●	
	鵜川の恩恵と活用	アイヌ博物館づくり			●	
		歴史の復刻			●	
		川下り体験	●			
		ししやもの生育環境づくり		●		
		農業体験		●		
		イベントの活性化		●		
		地域の観光案内人育成		●		
		商品開発		●		
	いガツチ、安ら安全防災・安心手と鵜手川つへな	防災情報が行き届く鵜川	防災情報システムの活用			●
			防災マップづくり	●		
		災害を知りともに助け合う鵜川	災害体験記づくり	●		
地域の防災訓練				●		
地域の防災講習会			●			
地域防災リーダーの育成				●		
災害に強いふるさとの川づくり		ふるさと護岸づくり			●	
		河川環境整備への参加			●	

# 3. 行動計画

行動計画の実行には鵜川・ピリカ・プロジェクトのみならず、流域住民や関係機関などにも広く参加を呼びかけます。プログラムの実施結果を踏まえて、計画の見直しを図りながら継続していきます。

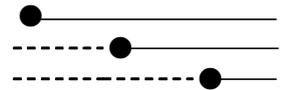
また、自然と魅力あふれる鵜川の実現を目指し、地域による自発的なアクション活動へと発展し、鵜川流域が活性化していくことを期待します。

※アクションプラン実施のめやす（点線は想い・計画時期）

短期取組：2～3年

中期取組：5～6年

長期取組：概ね10年



区別	内容	観光	教育文化	環境	防災	短期	中期	長期
情報発信	情報マップづくり	●	●	●		●		
	防災マップづくり				●	●		
	川の教科書づくり		●	●		●		
	災害体験記づくり		●		●	●		
体験イベント	エコツアー	●	●	●		-----	●	
	川下り体験	●	●	●		●		
	ししゃもの生育環境づくり		●	●		-----	●	
	地域の防災訓練		●		●	-----	●	
	農業体験	●	●	●		-----	●	
	イベントの活性化	●	●			-----	●	
	アイヌ文化体験	●	●			-----	●	
学習	川育の実施		●	●		●		
	地域の防災講習会				●	●		
	鵜川のアイヌ語地名探索		●			-----	●	
	絵・作文のコンクール（テーマ：100年後の鵜川）		●			●		
育成	鵜川の写真展	●	●	●		●		
	地域の観光案内人育成	●		●		-----	●	
	川育指導者の育成		●			-----	●	
建設整備	地域防災リーダーの育成				●	-----	●	
	ライフパーク看板づくり	●	●	●		-----	●	
	ふるさと護岸づくり		●		●	-----		●
	ししゃも館づくり	●	●	●		-----		●
	アイヌ博物館づくり	●	●			-----		●
	歴史の復刻	●	●			-----		●
企画	フットパスづくり	●		●		-----	●	
	情報発信拠点の活用	●	●	●		●		
	商品開発	●	●			-----	●	
	食の観光づくり	●				-----	●	
	体験型観光の整備	●	●	●		-----	●	
	防災情報システムの活用				●	-----		●
	河川環境整備への参加	●	●	●	●	-----		●